

■今日の開発協力の先駆けとなった「昭憲皇太后基金」

日本でまだ誰も“平時に備える”という発想をもたなかった明治時代、今もなお、世界中で赤十字が実施する開発協力活動に大きく貢献している「昭憲皇太后基金」が生まれました。

■各国赤十字社の支援活動推進（平時事業）のために

「昭憲皇太后基金」は1912年（明治45年）にワシントンで第9回赤十字国際会議が開催された際、赤十字の平時の活動を奨励するために昭憲皇太后（明治天皇の皇后）が国際赤十字にご寄付された10万円（現在の価値で3億5千万円に相当）を基に創設されました。

明治45年というと、大卒の初任給が30円程度、庶民にとって当時の1円は現在の4,000円程度の重みがあったと考えられます。世界で武力衝突が起こり、のちに第一次世界大戦が起こるその時代、世界の多くの赤十字社は戦時救護の対応に追われていました。そんな中、台風や地震等の災害への備えや、保健衛生の改善といった平時の活動を行うための国際基金の創設は、画期的なことであったと言われています。

同基金は、皇室をはじめとする日本からの寄付金によって成り立っています。基金は国際赤十字の中に設けられた合同管理委員会によって運営され、原資を取り崩すことなく、そこから得られる利子が世界の赤十字社の活動に配分されます。配分先は昭憲皇太后のご命日にあたる毎年4月11日に決定されています。これまでの配分は大正10年の第1回から今回（第97回）までで、合計約15億4000万円、配分先は166の国と地域に上ります。



ハンガリー赤十字社 看護教育
(第9回配分1930年)
(出典「日本から世界へ 思いやりの100年」)

■2018年の配分先が決定 —15カ国の活動に総額約4,700万円—

合同管理委員会は、事業目的の妥当性、ニーズ、事業のインパクト、過去の支援実績、地域バランス等考慮した結果、今年度の基金の配分先を以下の15カ国での活動に決定しました。総額は約4,700万円（約42万3,060スイスフラン）です。

※ 全て平成30年4月6日レート（1スイスフラン=111.35円）により換算。

第97回 昭憲皇太后基金配分事業の概要

レソト赤十字社 約345万円	【HIV予防と献血推進活動の融合】 若者の協力のもと、HIV予防活動や無償献血の推進を行います。
コートジボワール赤十字社 約333万円	【若者とコミュニティの献血推進活動への参加】 若者と地域住民が献血推進活動に参加し、血液確保に貢献します。
リベリア赤十字社 約334万円	【救急サービスの提供】 質の高い救急サービスを確実にし、迅速な病院搬送と一次救命処置を可能にします。
ソマリア赤新月社	【リーダーの育成】

約 334 万円	赤十字活動のリーダーに対する指導能力及び管理能力強化に取組みます。
エルサルバドル赤十字社 約 274 万円	【偏見や差別などの課題に対する活動】 赤十字の基本原則のもと、偏見や差別などの課題に対処するような対話型の方法を導入します。
ウルグアイ赤十字社 約 334 万円	【ボランティアネットワークの強化】 同赤十字社のボランティアのネットワークを強化・増強します。
ホンジュラス赤十字社 約 290 万円	【社会的に排除された青少年の教育】 平和教育や非暴力などに関する教育の提供に貢献し、学校に子どもたちが通い続けられるよう支援します。
モルディブ赤新月社 約 253 万円	【移民の健康を守りレジリエンスの強化】 感染症の流行など、移民が直面する健康問題に対処します。
パラオ赤十字社 約 321 万円	【介護士認定制度の導入】 知識や自信、思いやりのある介護士の育成を支援し、在宅ケアが必要な人々の生活の質を改善します。
パキスタン赤新月社 約 315 万円	【献血者管理システムの構築】 献血者情報を管理するための WEB を使った全国的な献血者管理システムを構築します。
ベラルーシ赤十字社 約 320 万円	【脆弱な人々への応急手当技術等の向上】 救急法指導員の育成や、アプリを利用した救急法知識の普及を通して、子どもや高齢者といった脆弱な人々のケガなどに対応します。
マケドニア赤十字社 約 296 万円	【脆弱で排除されたコミュニティへの支援】 マイノリティへのアプローチとして、少数民族のロマ民族のコミュニティ支援を行います。
ルーマニア赤十字社 約 305 万円	【新しく革新的なプログラムの導入】 マケドニア赤十字社と協力して、少数民族のロマ族のコミュニティ支援を行います。
ラトビア赤十字社 約 322 万円	【ボランティア部門の能力強化】 ボランティアの登録制度を改善し、ボランティアの赤十字活動への参加を促進します。
エジプト赤新月社 約 334 万円	【ジェンダーに基づく暴力の防止】 移民を含む思春期の少女を性暴力や性差別から守ります。

2016 年
昭憲皇太后基金
配分国の事業

▼貧しい人々への食糧の配給
(モロッコ赤新月社、2016 年)



▲学校における防災教育
(モンゴル赤十字社、2016 年)

～今回のニュースはいかがでしたか？ご意見・ご感想をお待ちしております～

★..
大募集！
..★

良かった・もっと知りたいテーマや記事、改善してほしい点など下記アドレスにお寄せください。
ご意見・ご感想をいただいた方の中から抽選で毎月 1 名様に赤十字グッズを差し上げます。
いただいたご意見・ご感想は今後本ニュース内でご紹介させていただく場合があります。

☆☆ 日本赤十字社国際部 kokusai@jrc.or.jp ☆☆